

2023年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

1. 助成対象事業	「女性学・ジェンダー研究の発展に資する調査、研究、出版」
2. 事業の区分	「一般プロジェクト」
3. 氏名/団体名	TremendousCircus
4. 事業名	『女性大会議』
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2024年6月12日～7月14日

7. 事業の目的

インターネット上で、顔も素性もわからない人間同士がフェミニズムを議論し合う現代で、ウーマンリブの伝説の長野合宿のように、女性が実地で、女性の身体を伴って出会い、女性の生きづらさについて語り合うこと。

8. 実施内容

2024年4月より、第一部ミュージカルパートの為の、基礎稽古、ハラスメント防止研修、ジェンダースタディーズに取り組む。

ウーマンリブ伝説のミュージカルである田中美津著「ミュージカル＜女の解放＞」の上演許可を得るため、田中美津先生と連絡を取り合うが、先生の体調不良により交渉継続が不可能となり、オマージュしたオリジナル作品に移行。

執筆は作家1人が描くのではなく、元のミュージカルの構成を参考に令和版にアップデートし、市井の、普通の女性の抱える問題を、参加者たちが散文として持ち寄り、それを作家がまとめる形で構成した。

二部の大会議＜ガチバトル＞では、KUTOO運動で有名な、アクティビストで俳優の石川優実さんにも参加いただき、実生活に根差した女性差別について議論。感情を伴って実地で話すことで、女の身体的重要性を実感した。

東京ウィメンズプラザホールにて2024年7月14日12時より開催。64名が来場した。

9. 事業の成果と自己評価

ミュージカルパート、大会議＜ガチバトル＞パート、共にテーマを補完し合っている。まず我々が話し合ったテーマは、家族・姉妹間でフェミニズムを共有しにくいことや、ロリタファッション購買層における女男の経済格差、社会福祉や性売買に関する課題だ。

中でもそれらを包括する、最重要トークテーマは、TremendousCircus自身が提案した“ラディカル・ヴィクティム・フェミニズム”という概念であったように思う。

それはこれまで女性全体を対象に行われてきた女性差別撤廃に関する議論を、最も抑圧されている、女性暴力・性暴力被害者、中でもレイプ被害者を“基準”として考える、というものだ。

MeTooに代表される第四波は、分断の第四波とも考えられる。ネット上でも多くの場面で、フェミニスト同士がイデオロギーを巡って言い争う場面を見る。だが、そこに“レイプ被害女性を基準とする”、という概念を持ち込むことで、最優先課題が見え、議論から実行するフェーズへと移行し(トリアージ)、分裂を乗り越えることができるのではないかと、私達は考えた。

例えばレイプ被害女性は、女男共学の学校で学ぶことも厳しいだろう。女子校、女性大学の撤廃の議論もされているが、やはりそのような場は、レイプ被害女性のために必要となってくる。

元々ヴィクティム・フェミニズム(被害者フェミニズム)という言葉はリベラル・フェミニストが、ウーマンリブを「女性を弱者と定義するな！」と批判する目的で生まれた。だが、“ラディカル”・ヴィクティム・フェミニズムは違う。実際にレイプ被害にあった女性を“基準”として、最も抑圧された状態にある彼女たちに行動させるのではなく、社会全体が、障がい者運動におけるユニバーサルデザインのように、レイプ被害女性たちを含めた、あらゆる女性が生きやすい社会環境を作ろうと提案するイデオロギーである。

その提案が世界で初めてされた場に、市井の、普通の女たちが、その身体を持ち寄り集まって話し合ったことは、ウーマンリブからフェミニズムへの歴史さえ分断された現代日本で、その二つをつなぐ架け橋となる、重要な歴史的事業であったと思う。

観客の反応・感想

・女性差別を真面目に面白いエンターテイメントにしている、おしゃれだし、楽しめて気持ちが良い！

音楽、衣装、舞台装置もなかなか手が混んでいてワクワクした。ショートストーリーの短い時間の作品も観たい。

ウーマンリブの時代に行きた者として懐かしく、嬉しかった。当時は厳しく激しくギリギリ崖っぷちの毎日で明日が見えなくても突っ走っていました。今も未来しか見てないので立ち止まれない。生きることは闘うことと思っています。

・第1部、メンバーさんの言葉もしっかり聞き取れたし、沢山笑い楽しませて頂きました。ダンスが相変わらず上手いですね。公園でchillさんも加わり歌もさらに素敵でした。

内容ですが、忙し過ぎて食器などの洗い物など、家事がろくに出来ない私にとって、それで良いと言ってもらえて楽になりました。身だしなみだって、明日は今日と同じ服を来て行きます(笑)。

実はフェミニズムに少し限界を感じていましたが、第2部で知乃さんが言われた「ラディカル・ヴィクティム・フェミニズム」という視点はとても良いと思いました。LHBTQ界限の人たちに性暴力についてあまり伝わらない感があり、ずっとモヤモヤしていたので。排除したいわけではなく、ましてや差別ではなく、男性表象の方々が怖いという部分をなんとか理解してもらいたいということなんですよね。

ではまた、皆さまにお会い出来るのを楽しみにしております。本日は本当にありがとうございました。

等

10. 成果物

- ・フライヤー
- ・当日パンフレット
- ・写真

1部 ミュージカルパートより

公演の様子 3枚 会場装飾 1枚

合計4枚

